

くまびょう

98号

NEWS

くまびょう
NEWS2005年
8月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)

〒860-0008

熊本市二の丸1番5号

TEL (096) 353-6501(代)

FAX (096) 325-2519

紹介患者優先診療導入後1年を経過して

外来委員長
清川 哲志

当院は、開放型病院であると共に地域医療支援病院として、地域の医療機関からの紹介患者様を積極的に受け入れてきました。ご紹介で来られた患者様は、事前の時間予約が困難なことや紹介診療科受診後の検査や他科への再紹介等が必要になることが多く長時間の受診を余儀なくされていました。

長時間の受診待ちを改善するために、平成16年7月より紹介患者様の優先診療を開始致しました。具体的には紹介状をお持ちの患者様は、外来基本伝票を入れるファイルを青色とし、紹介受診であることを明確にしました。外来担当医、検査担当医はできるだけ早く

患者様を診察、検査を行います。導入して1年になりますが、職員もシステムに慣れ、紹介患者様の受診時間の短縮に効果が上がっております。

このような取り組みと同時に一般受診の患者様で体調の悪い方については、積極的に救命救急センター外来を利用することを勧めており、患者様の利便を図っております。

これからも、紹介患者様のできるだけ速やかな診療に努めます。またご紹介のときにFAXやEメールを送信して頂きますと、事前にカルテを作成でき、よりスムーズに診察を開始することが可能です。これからもFAX、Eメールの送信をよろしくお願い致します。

今年末にはオーダーリングが導入されます。現在その体制作りを精力的に行っていますが、オーダーリングでは紹介患者様の時間予約も可能になります。さらに紹介患者様へのサービスを向上させていきます。

これからも逆紹介も含め医療連携に努めて参ります。宜しくご協力お願い申し上げます。

第19回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催のお知らせ

第19回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が下記の要領で開催される予定です。多数の御参加をお待ち致します。

- | | |
|----|--|
| 日時 | 平成17年9月15日(木) 18時30分～21時 |
| 場所 | 〒860-8554 熊本市手取本町8-9 テトリア熊本ビル くまもと県民交流館パレア
TEL 096-355-4300(代) |
| 内容 | 1. 開放型病院連絡会総会(10階 パレアホール)
1) 症例紹介(紹介症例から) 2) パネルディスカッション
2. 懇親会(7階 鶴屋ホール) 懇親会の会費5,000円は、当日受付で申し受けます。 |

なお、当日会場にて新規登録医の申請もできます。登録医証の発行をご希望の先生は、会場写真撮影を実施させていただきます。また、施設見学(MRI、マルチCT、ガンマカメラ、心血管造影室、その他)をご希望される先生は、18時までに病院玄関にお集まり願います。見学終了後、タクシーにて連絡会会場までご案内致します。

【参加申込先】国立病院機構熊本医療センター管理課

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL 096-353-6501 (内線390)

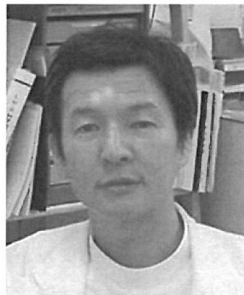


病診連携に心から感謝します

医法) 野尻会

熊本泌尿器科病院

理事長 野尻 明弘



日頃から、当院の入院患者さんや透析患者さんの急変時には、夜間・休日に拘らず貴院にお引き受けいただき、心から感謝いたしております。また、膀胱全摘術や合併症のある患者さんの泌尿器科手術の際には、菊川泌尿器科医長にお願いし、当院の医師も手術に立ち合わせていただくなど、当院の不足す

る機能を補完していただく形の病診連携が実行されています。

家内も、前川前皮膚科部長の頃から水曜日の午前中貴院で研修させていただき、当院で欲求不満になりがちな皮膚科医としての仕事を経験し、充実感を味わっているようです。(私的なことではありますが) 家庭円満の大きな要因として、感謝感謝です。

私は、昭和56年から1年間だけ泌尿器科レジデントとして在籍させていただきました。指導力のある優秀な泌尿器科の上司や優しい他科の先輩方のお陰で充実した1年間でしたが、現在お勤めの医師の忙しさとは比べ物にならないと思います。

深夜にも拘らず煌々とした灯りの中できびきびと仕事をされる貴院のスタッフを見ておきますと、医療の原点に戻ったような気がして、医師として心の奥で再び燃え上がるものを感じますが、断らない救急医療を始められた頃は、野戦病院(表現が悪く申し訳ありません)を見るような気もしていました。近年の救急体制の充実振りは、貴院のスタッフが丸丸となって努力された賜物であり、敬意を表します。

貴院にお世話になった患者さんのお名前やお顔を思い出しますと、感謝の気持ちで一杯になります。貴院の益々のご発展と充実を祈念いたします。

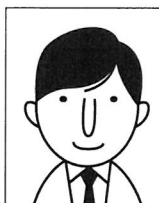
国立病院機構熊本医療センター開放型病院登録医証の発行について

登録医証につきましては、共同指導の際に名札としてご利用頂けます。発行をご希望の先生は、管理課庶務係(TEL 096-353-6501 内線390)までお申し込み下さいますようお願い致します。

なお、写真は時間内であれば当院内で撮影できますし、縦4cm×横3cmで顔全体が写っているものをお持ち頂いても結構です。

また、駐車場については、外来駐車場にて駐車券をお取り頂き、0番窓口(時間内)又は、時間外受付(時間外)にお申し出頂ければ、無料の手続きを致します。

開放型病院登録医証



〇〇〇 医師会
熊本 太郎

平成17年1月1日交付
国立病院機構熊本医療センター

1. 国立病院機構熊本医療センターで診療を行う場合は、この証を持参し名札として着用下さい。
2. 駐車場を利用される場合は、この証を駐車場入口で提示して下さい。
3. この証の記載事項に変更があったときは速やかに届け出て下さい。
4. この証の有効期限は3年間と致します。

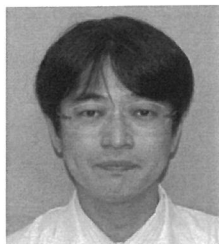
■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

新任職員紹介



感覚器センター

眼科医長

あお き ひろ のり
青 木 浩 則

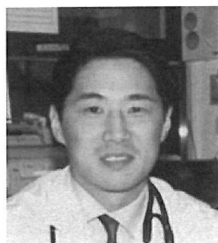
平成17年7月より宮川真一先生の後任として勤務しております。眼科は手島先生と青木、上野先生の3人で診療を行っております。私は、平成元年に熊本大学医学部を卒業後、眼科に入局しました。平成3年から大学院に入りヘルペスウイルスについての研究をしま

した。宮川先生にはその当時からご指導を頂いており、今回の異動に際しましては宮川先生の後の仕事を無事勤められるか不安に感じております。

大学院修了後は熊本中央病院、熊本労災病院に勤務しておりました。当国立病院機構熊本医療センターに赴任し、眼科機械の充実ぶりに驚きました。外来のレーザー装置や手術装置など最新鋭の機器が揃っております。手島先生始めこれまでに当院に勤務された先生方の努力の賜と感じております。手島先生にご指導を頂きながら地域医療のお役に立てるように頑張りたいと思います。

諸先生方のご指導、ご協力を何とぞよろしくお願いいたします。

救命救急センターだより (救命救急センター2周年)



救命救急センター

部長

高 橋 毅

平成15年8月に救命救急センターの認可を受け、早いもので2周年を迎えました。平成16年の救命救急センター入院者数は1,489名で、主な疾患としては、脳血管障害420名、急性呼吸不全207名、急性心不全207名、急性中毒158名でした。さらに行き届いた診療が行われるように、今年の7月からは院内病床数の調整を行い40床とし、かなり充実した体制になりました。

当院では、質の高い救急医療を目指しており、すべての診療科が、先進医療・先端技術の導入による最新救急医療の提供を心がけています。これからの季節、最も多くなる虚血性脳血管障害に関しましても、超急性期であればマイクロカテーテル、PTAバルーンによる超選択的脳血栓溶解療法、経皮的血栓移動術、脳血管形成術等を行うことにより、致命的な障害から解放される可能性が高く

なります。

さて、当救命救急センターでは、救急医療の充実に向けて、年7回(5月、6月、8月、9月、11月、2月、3月の第4水曜日)地域医療研修センターの研修ホールで午後6時30分より1時間半の予定で救急症例検討会を開催しています。

来る8月24日(水)開催予定の第71回救急症例検討会では、救命救急センターの2周年を記念して、山口大学医学部生態侵襲医学講座教授 前川剛志先生に「急性重症脳障害に対する脳保護・蘇生 一体温調節の重要性」と題して特別講演をお願いしています。

多数のご参加をお待ちします。





研 究

患者様の紹介は高木（内線709）、森永（内線794）へ直接お電話頂いても、患者様へ紹介状を託して受診して頂いても結構です。時間外・休日は小児科宛の紹介状を持参し救急外来を受診して頂くと、当番の小児科医が診察し、必要に応じて入院加療を致します。



高 木 一 孝

小児科一般、小児血液疾患、
造血幹細胞移植、小児感染症
小児科専門医



森 永 信 吾

小児科一般、小児血液疾患、
造血幹細胞移植、膠原病
免疫アレルギー
小児科専門医



池 田 洋 一 郎

小児科一般、小児救急医療、
小児代謝疾患
小児科専門医



中 田 絵 美

小児科一般、新生児医療
小児科認定医

特 色

子どもの健康上の全般的問題（身体的精神的疾患）について、外来及び入院で治療を行っています。

一般小児診療としては感染症が大部分ですが、特に小児の血液疾患（白血病、貧血、紫斑病、血球貪食症候群など）については化学療法、造血幹細胞移植や免疫抑制療法などの専門的治療を行っています。また、小児の救急についても時間外・休日を問わず入院を受け付けています。

- 1) 感 染 症：気管支炎、肺炎、感染性胃腸炎、ウイルス性発疹症、髄膜炎、尿路感染症など主として呼吸器・消化器感染症が大部分を占めます。細菌性髄膜炎やVAHS（ウイルス関連血球貪食症候群）などの重症感染症の治療も行います。
- 2) 血液疾患：白血病、悪性リンパ腫、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、紫斑病などの診断と治療を行っています。血液悪性腫瘍については造血幹細胞移植（末梢血、骨髄の自家及び同種移植）に取り組んでいます。
- 3) 救急疾患：時間外・休日の熱性疾患、けいれん性疾患など小児の救急疾患に対してオンコール体制で臨んでおり、入院の場合は必ず小児科医が対応しています。
- 4) そ の 他：アレルギー性疾患（喘息、食物アレルギーなど）、消化器疾患、神経疾患、腎疾患、膠原病、心身症、乳幼児健診、予防接種（二種混合、三種混合ワクチン）など、一般小児疾患について受け付けています。

診療実績

- 1) 平成16年の入院内容は、入院総数500名（感染症303名、血液疾患66名、その他アレルギー疾患、神経疾患、消化器疾患など）です。
- 2) 平成元年より扱った白血病・リンパ腫など血液悪性疾患の新患者数は120例で、内訳はALL71例（生存54例：76.0%）、AML32例（生存15例：48.3%）、悪性リンパ腫16例（生存14例：87.5%）、造血幹細胞移植は現在まで27名に対して行い（生後7ヶ月～16歳、計33回）、12名（44%）が生存中です。

最近のトピックス

シャントトラブルに対する
ブラッドアクセスインターベンション治療

総合医療センター

腎臓内科

(腎センター)

宮中 敬

今回は透析患者のシャントトラブルに対して最近頻繁に行われるようになったブラッドアクセスインターベンション治療 (blood access interventional therapy: BAIVT) について述べます。

シャントは動脈と静脈を吻合し動脈血を静脈に流すもので、血液透析を行っている患者にとっては命綱となるものです。シャントトラブルが起こった場合には、従来は外科的に新たなシャントを再建していましたが、近年はBAIVTを選択することが増えてきています。その一番の理由は、透析療法の進歩によって透析を受けている慢性腎不全患者の寿命が延長していますが、BAIVTは現在使用しているシャントの使用期間を延長することができるため、新たなシャント造設の機会を将来に温存できることにあります。

BAIVTによる治療には、各種のシャントトラブルに対応できるように多くの方法が開発されています(図1)。治療の中心となるバルーンによる血管拡張術や、血栓性閉塞を来したときに行われる血栓除去療法などがありますが、シャントトラブルの状況に応じて治療方法を選択し、あるいは併用して治療を行っていきます。

BAIVTの対象となるシャントトラブルには次のようなものがあります。

1. 血流低下

シャントトラブルの大半を占めるものです。治療は

1. バルーンによる血管形成術
balloon angioplasty
2. スtentによる血管形成術
stent angioplasty
3. 血栓除去療法
 - 1) 流体力学的血栓除去療法
hydrodynamic thrombectomy
 - 2) 薬理的な血栓溶解療法
pharmacomechanical thrombolysis

図1 BAIVTの種類

狭窄部位に対してバルーンによる血管拡張術を行います(図2)。頻回に再狭窄を来す場合はステント留置を併用することもあります(図3)。

2. 血栓性閉塞

狭窄などが原因となります。血栓溶解や血栓除去を行った後に、その原因となった狭窄の拡張を併用します。

3. 静脈高血圧症

手指が赤黒くソーセージ状に腫れたり、腕全体が腫脹するといった症状が見られます。原因はシャント静脈に狭窄や閉塞があり、シャント血流が末梢の静脈へ逆流することで起こります。治療はこの狭窄や閉塞部位に対してバルーンによる血管拡張術を行います。

外科的再建と比較してBAIVTのメリットは、同じ病変に対して反復して治療を行うことができるため現在使用しているシャントを温存できることです。また新たな皮膚切開が必要でないことも患者にとっては大きなメリットになります。反対にデメリットは、再狭窄を来しやすいことです。しかし最近ではカッティングバルーンやステントなどのデバイスが開発され改良されてきていますので、長期開存率の向上が期待されています。シャントトラブルに出会ったら、外科的再建を行う前にBAIVTを検討してみるのも良いと考えています。



図2 狭窄部位をバルーンで拡張している

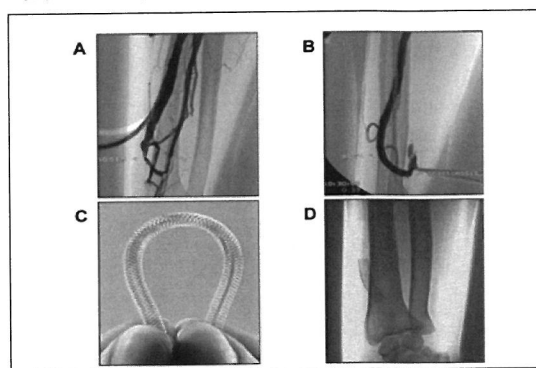


図3 A: 治療前
B: 治療後(バルーンで拡張しステントを留置した)
C: ステント D: 留置したステント



小児科 笹尾 明



はじめまして。平成16年10月1日より熊本大学附属病院Bプログラムで国立病院機構熊本医療センター研修医として赴任しております笹尾明と申します。

平成16年4月より熊本大学附属病院にて心臓血管外科、消化器外科（肝臓）、救急、麻酔科の外科系研修を終え、国立病院機構熊本医療センターの研修医として、内科系6ヶ月間、産婦人科・精神科・小児科各2ヶ月間計1年間の研修をさせていただくことになりました。地域医療・選択科（5ヶ月放射線科）から再び熊本大学附属病院ローテートすることになります。

内科系6ヶ月では血液内科、消化器科、呼吸器科、循環器科、神経内科、腎臓科を研修し多方面からの内科的思考や処置の方法の理論と実践など総合内科的な研修をさせていただけたと思います。

特に、冬場の研修となった為、呼吸器疾患、急性心疾患を数多く経験でき大変勉強になりました。

4月より救命救急センターでのC当直も始まり、より責任の重い研修2年目がスタートし当直での救急車以外の外来診察も多く経験させていただき、これまで学んできた診断の順序・方法、入院か帰宅かの分類、専門科へのコンサルトなどを上級医の先生方に確認しながら悪戦苦闘する日々です。

産婦人科での研修は、患者様の心理面に、より気を配らなくてはならない科ということもあり1年目とはまったく違った環境の中、様々な症例を経験させていただきました。主に指導医の先生と共に、術前診察・内診・検査・治療を行いました。検査では、経膈超音波や双合診など実践のなかで研修しました。

また、助手として手術に参加し、術前の診察、検査、画像診断で診ていた病巣を直視下に見ることで、その形・性状を実感することができました。

最後に、いろいろと先生方や医療スタッフの方々にはご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、あと残り1ヶ月と短い間ではございますが一生懸命患者様ならびにスタッフの皆様のご期待にそえるよう努力いたします。

未熟者で大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご指導、ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

総合医療センター 内科 緒方 真貴子



はじめまして。平成17年4月から、国立病院機構熊本医療センターで研修をしている、緒方真貴子と申します。国立病院機構熊本医療センター専属の研修医として2年間、お世話になります。4月、5月は血液内科で研修をしました。血液内科では、伝票の出し方から、ルートを取り方まで、何もわからない状態から丁寧に指導いただきました。そして検査をして薬を処方

するという、一連の流れができるようになりました。血液疾患では移植など重症の患者様が多く、患者様の生死を目の当たりにして、治療する医師の責任の重さを感じました。6月からは呼吸器科でお世話になっています。呼吸器科では多くの患者様を担当し、肺炎、肺癌、不明熱など多様な疾患を経験し大変勉強になっています。午前中は病棟の患者様を回り、病状を把握し問題点などを指導医に報告しています。受け持ちの患者様を回るのが精一杯で、午前中だけでは回りきれないこともありますが、早く的確に患者様の状態を把握できるように頑張っています。2ヶ月と少し研修を経て、1つの科が2ヶ月というのは、短いと感じていますが、短いながらもできるだけ多くのことを学べるよう、努力したいと思います。諸先生方にご迷惑をおかけするとは思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>

■ 研修のご案内 ■

第13回 熊本がんフォーラム(無料)

日時▶平成17年8月4日(木) 18:30~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

司会 みずもとこどもクリニック院長 水元 裕二

「小児の悪性腫瘍(白血病)」

国立病院機構熊本医療センター小児科医長 森永 信吾

国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝

その他、一般演題を数題準備しています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 池井 聡 TEL 096-353-6501(代表) FAX 096-325-2519

第79回 月曜会(無料)

(内科症例検討会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成17年8月15日(月) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例提示「高カルシウム血症による腎障害の症例」

国立病院機構熊本医療センター腎センター腎臓内科医長 富田 正郎

4. ミニレクチャー「深部静脈血栓症と肺塞栓について」

国立病院機構熊本医療センター心臓血管センター循環器科 村上 和憲

5. その他

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501(代表) FAX 096-325-2519

第48回 三木会(無料)

(糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会)

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成17年8月18日(木) 19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 糖尿病連携クリティカルパスについて

国立病院機構熊本医療センター 市原 ゆかり、児玉 章子、高橋 毅、東 輝一朗、小堀 祥三

2. 化学療法経過中における悪性褐色細胞腫患者の耐糖能の検討 国立病院機構熊本南病院代謝内科 徳永 寛

3. 当院の糖尿病外来の状況 くまもと成仁病院院長 上原 昌哉

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三・東 輝一朗 TEL 096-353-6501(代表) 内線796

第71回 救急症例検討会(無料)

日時▶平成17年8月24日(水) 18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

特別講演「急性重症脳障害に対する脳保護・蘇生—体温調節の重要性—」

山口大学医学部生態侵襲医学講座教授 前川 剛志

症例検討「外傷」

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線263 096-353-3515(直通)

平成17年 研修日程表 8月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

8月	研修ホール	会議室	その他
1日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
2日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
3日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
4日(木)	18:30~20:30 第13回 熊本がんフォーラム 「小児の悪性腫瘍(白血病)」 司会 みずもとこどもクリニック院長 水元 裕二 国立病院機構熊本医療センター小児科医長 森永 信吾 国立病院機構熊本医療センター小児科部長 高木 一孝		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
5日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
6日(土)	9:00~18:10 第20回 ナースのための人工呼吸セミナー(会費制) (講演) 1. 呼吸生理と血液ガス 2. 症例を通しての血液ガスの読み方の実際 3. 呼吸管理と看護のポイント 4. 色々な病態における呼吸不全の治療 (実習) 人工呼吸器の取り扱い実習	名古屋市立大学大学院 医学研究科危機管理医学教授 勝屋 弘志 熊本大学医学部附属病院麻酔科 谷本 宏成 国立病院機構熊本医療センターICU室長 瀧 賢一郎 信州大学救急集中治療医学教授 岡元 和文	
8日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
9日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
10日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
11日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
12日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
15日(月)	19:00~20:30 第79回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
16日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
17日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
18日(木)	19:00~20:30 第48回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
19日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
22日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
23日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
24日(水)	18:30~20:00 第71回 救急症例検討会 特別講演「急性重症脳障害に対する脳保護・蘇生 —体温調節の重要性—」 山口大学医学部生体侵襲医学講座教授 前川 剛志 症例検討 「外傷」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
25日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
26日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
29日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
30日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前術後症例検討会 C
31日(水)	19:30~21:30 臨床口腔外科講演会 座長 菊池郡市歯科医師会会長 中山 精文 「歯科臨床で生かす炭酸ガスレーザーの使い方」 榎原歯科医院長 榎原 正人	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代) 内線263 096-353-3515(直通)